

「令和 8 年熊本地震」

（１）概要

2026年 7 月28日16時27分に熊本県熊本地方の深さ16kmでM7.1の地震が発生し、熊本県宇城市及び氷川町で震度 7 を観測したほか、九州地方から中部地方にかけて震度 6 強～ 1 を観測した。また、熊本県熊本で長周期地震動階級 4 を観測したほか、九州地方から近畿地方にかけて長周期地震動階級 3 ～ 1 を観測した。

気象庁はこの地震に対して、地震波検知から3.8秒後の16時27分21.9秒に緊急地震速報（警報）を発表した。また、同日16時29分に有明・八代海に津波注意報を発表し、同日18時10分に津波注意報を解除した。この地震で津波は観測されなかった。

この地震は地殻内で発生した。発震機構（CMT解）は北北西－南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

この地震以降、同日16時29分にM4.8の地震（最大震度 5 弱）、17時08分にM6.1の地震（最大震度 5 弱）、19時03分にM4.2の地震（最大震度 5 弱）、7 月29日22時19分にM5.8の地震（最大震度 5 弱）、8 月 1 日21時47分にM4.7の地震（最大震度 5 弱）が発生するなど活発な地震活動が継続しており、8 月12日08時00分までに震度 1 以上を観測した地震が622回（震度 7 ： 1 回、震度 5 弱： 5 回、震度 4 ： 22回、震度 3 ： 61回、震度 2 ： 155回、震度 1 ： 378回）^{（注）} 発生している。

今回の地震活動は日奈久断層帯の 3 つの区間（高野－白旗区間、日奈久区間、八代海区間）のうち、主に高野－白旗区間及び日奈久区間に沿って分布している。また、今回の地震活動域の北東の熊本県熊本地方から大分県中部にかけては「平成28年（2016年）熊本地震」の地震活動域が存在し、熊本県阿蘇地方から今回の地震活動を含む領域では、「平成28年（2016年）熊本地震」発生以前に比べ、地震活動が活発な状態が継続していた。

気象庁は、この地震及びそれ以降に発生した一連の地震活動について、「令和 8 年熊本地震」と名称を定めた。

「令和 8 年熊本地震」により、死者39人、負傷者173人、住家全壊699棟などの被害が生じた（2026年 8 月 9 日10時00分現在）。

気象庁本庁、福岡管区气象台及び福岡管内の各地方气象台は、「令和 8 年熊本地震」により震度 5 強以上を観測した震度観測点及びその周辺を中心に気象庁機動調査班（JMA-MOT）を派遣し、震度観測点の状況及び地震動による被害状況の現地調査を行った。

「令和 8 年熊本地震」による被害状況を表 1－1 に、震度 1 以上の最大震度別地震回数表を表 1－2 に、震度 1 以上の日別地震回数グラフを図 1－1 に、主な地震活動の地震回数比較を図 1－2 に、気象庁及び各地の气象台が発表した主な情報及び報道発表を表 1－3 及び表 1－4 に示す。

（注）：掲載している地震回数は、後日の調査で更に変更となることがある。

表 1－1 「令和 8 年熊本地震」による被害状況
（2026 年 8 月 9 日 10 時 00 分現在、総務省消防庁による）

都道府県名	人 的 被 害				住 家 被 害		
	死者	行方不明者	負 傷 者		全壊	半壊	一部破損
			重傷	軽傷			
	人	人	人	人	棟	棟	棟
福岡県			1	1			8
熊本県	39		23	146	699	1, 045	7, 622
大分県				1			
鹿児島県				1			
合 計	39		24	149	699	1, 045	7, 630

震度1以上の地震の発生状況

【最大震度別・日別地震回数表】
(7月28日16時～8月12日9時)

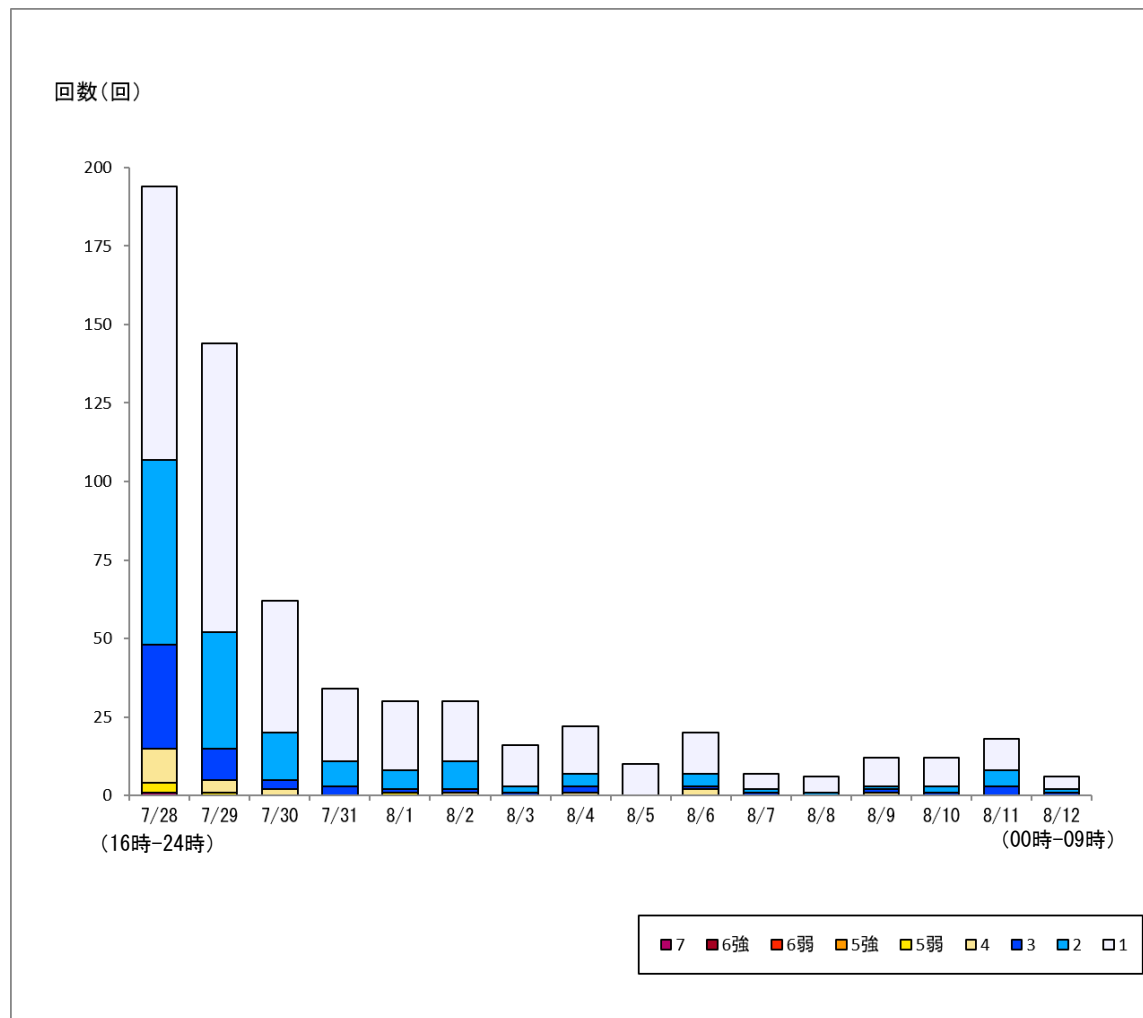
日別	最大震度別回数										震度1以上を観測した回数	
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7		回数	累計
7/28	87	59	33	11	3	0	0	0	0	1	194	194
7/29	92	37	10	4	1	0	0	0	0	0	144	338
7/30	42	15	3	2	0	0	0	0	0	0	62	400
7/31	23	8	3	0	0	0	0	0	0	0	34	434
8/1	22	6	1	0	1	0	0	0	0	0	30	464
8/2	19	9	1	1	0	0	0	0	0	0	30	494
8/3	13	2	1	0	0	0	0	0	0	0	16	510
8/4	15	4	2	1	0	0	0	0	0	0	22	532
8/5	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	542
8/6	13	4	1	2	0	0	0	0	0	0	20	562
8/7	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	7	569
8/8	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	575
8/9	9	1	1	1	0	0	0	0	0	0	12	587
8/10	9	2	1	0	0	0	0	0	0	0	12	599
8/11	10	5	3	0	0	0	0	0	0	0	18	617
8/12	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	6	623
総計	378	155	62	22	5	0	0	0	0	1		623

【最大震度別・時間別地震回数表】
(8月12日0時～9時)

時間別	最大震度別回数										震度1以上を観測した回数	
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7		回数	累計
8/12 00時-01時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	617
01時-02時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	617
02時-03時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	618
03時-04時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	618
04時-05時	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	619
05時-06時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	620
06時-07時	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	622
07時-08時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	622
08時-09時	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	623
総計	378	155	62	22	5	0	0	0	0	1		623

【日別地震回数図】

(7月28日16時～8月12日9時、震度1以上の地震)



※掲載している地震回数は、後日の調査で変更になることがあります。

（２）地震活動

ア.「令和 8 年熊本地震」の地震活動

2026 年 7 月 28 日 16 時 27 分に、熊本県熊本地方の深さ 16km で M7.1 の地震（最大震度 7）が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構は北北西－南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震の震央周辺では、M7.1 の地震発生後の同日 17 時 08 分に M6.1 の地震（最大震度 5 弱）、29 日 22 時 19 分に M5.8 の地震（最大震度 5 弱）が発生するなど、活発な地震活動が継続しており、28 日から 8 月 1 日にかけて震度 5 弱以上の地震が 6 回発生している。

今回の地震活動域付近には、布田川断層帯、日奈久断層帯が存在している。地震調査研究推進本部地震調査委員会は、「M7.1 の震源断層は、日奈久断層帯の日奈久区間の北東部及び高野－白旗区間の一部に及んでいると考えられる。」と評価した。気象庁は、この地震及びそれ以降に発生した一連の地震活動について、「令和 8 年熊本地震」と名称を定めた。

2000 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震活動域の周辺（領域 a）では「平成 28 年（2016 年）熊本地震」が発生している。「平成 28 年（2016 年）熊本地震」では、熊本県で死者 275 人、大分県で死者 3 人などの被害が生じた（熊本県は 2025 年 4 月 11 日現在、熊本県による、その他は 2019 年 4 月 12 日現在、総務省消防庁による）。

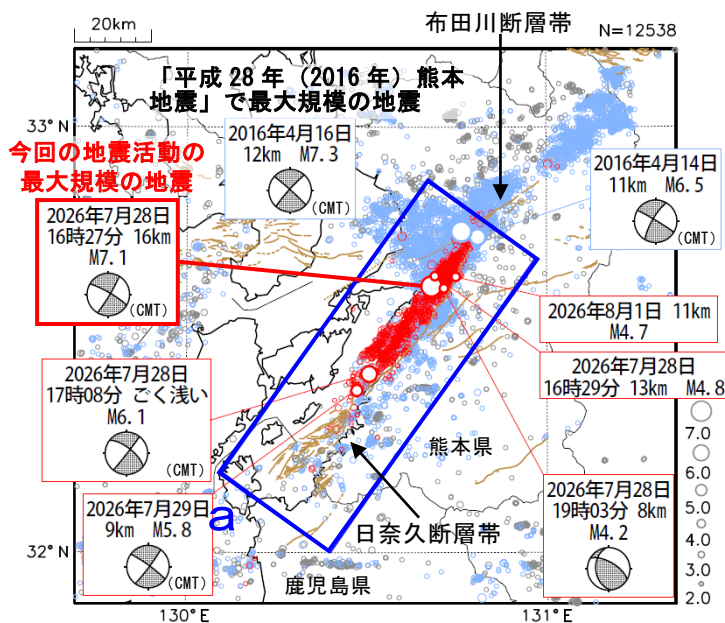


図 2－1 震央分布図

（2000 年 10 月 1 日～2026 年 8 月 1 日

深さ 0～20km、 $M \geq 2.0$ ）

2016 年 4 月 14 日 21 時より前に発生した地震を灰色○、

2016 年 4 月 14 日 21 時から 2026 年 7 月 28 日 16 時までに

発生した地震を青色○、

2026 年 7 月 28 日 16 時以降の地震を赤色○で表示

茶色の実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

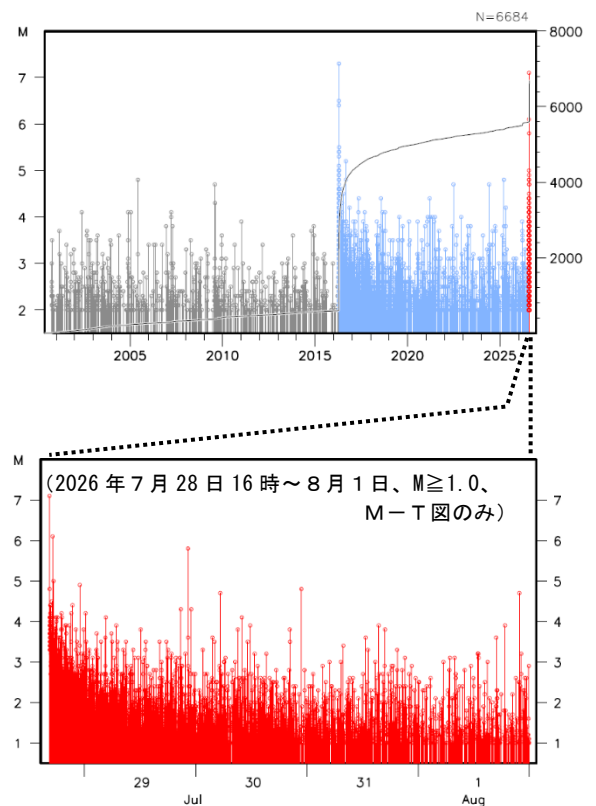


図 2－2 領域 a 内の M－T 図及び回数積算図

イ. 発震機構

2000年10月以降に発生した地震の発震機構分布及び発震機構の張力軸の分布を図2-3に示す。また、図2-3の領域b内の地震の発震機構の型の分布及び張力軸の向きの分布を図2-4に示す。

今回の地震の震央付近では、横ずれ断層型や正断層型の地震が多く見られ、発震機構の張力軸の向きは南北方向や北北西-南南東方向の地震が多い。今回の地震（M7.1）は、発震機構が北北西-南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であり、これまでの地震の傾向と調和的である。

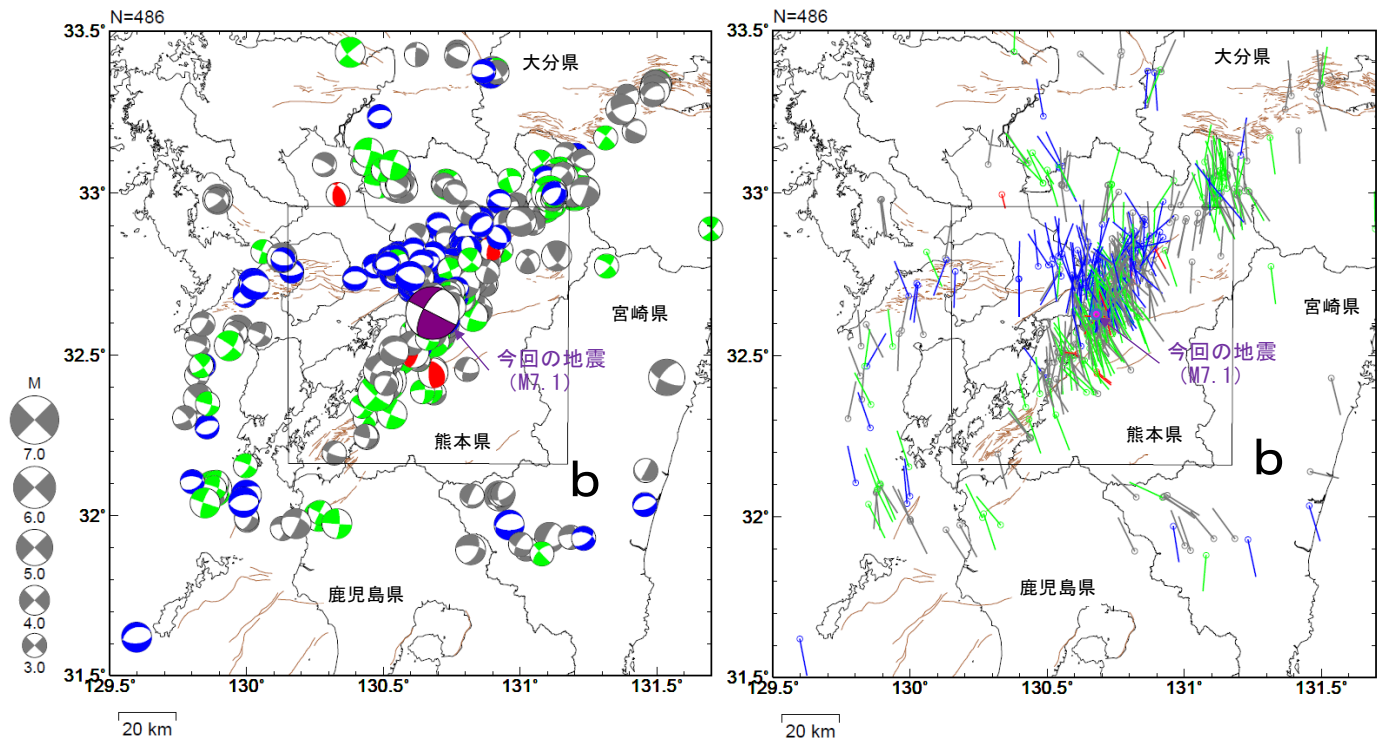


図2-3 発震機構分布図（左）、発震機構の張力軸の分布（右）

期間：2000年10月1日～2026年8月3日、深さ：0～20km、 $M \geq 3.0$ 、発震機構は初動解による（震源の位置に表示）。**逆断層型の地震を赤色、正断層型の地震を青色、横ずれ断層型の地震を緑色**で表示（Frohlich (2001)による分類）。2026年7月28日の地震（M7.1）は紫色で示した。茶色の実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

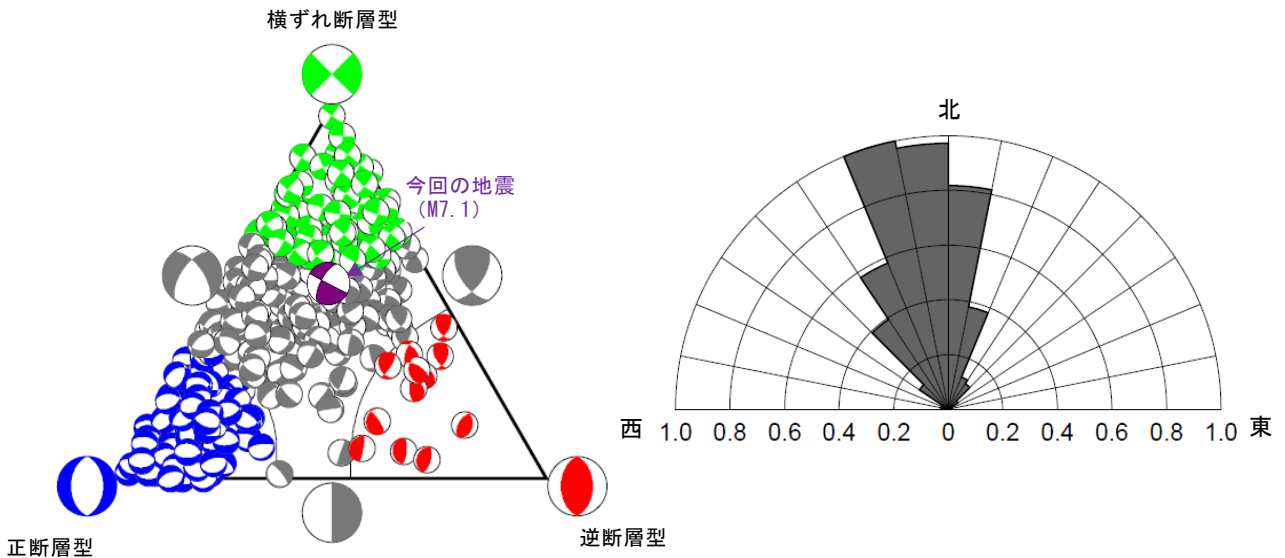


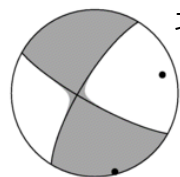
図2-4 図2-3の領域b内の地震の発震機構の型の分布（左）及び発震機構の張力軸の方位分布（右）
発震機構の型の分布は、**逆断層型の地震を赤色、正断層型の地震を青色、横ずれ断層型の地震を緑色**で表示（Frohlich (2001)による分類）。2026年7月28日の地震（M7.1）は紫色で示した。

令和8年熊本地震（F-net, Hi-netによるメカニズム解）

本震および余震はおおよそ南北方向に伸張軸を持つ横ずれ断層および正断層が卓越

2026/07/28 16:27 (Mw 6.7, 深さ17km)

北北西—南南東伸張の横ずれ断層



Mw = 6.7
Mo [Nm] = 1.12×10^{19}
NP1: (211, 76, -170)
NP2: (119, 80, -14)

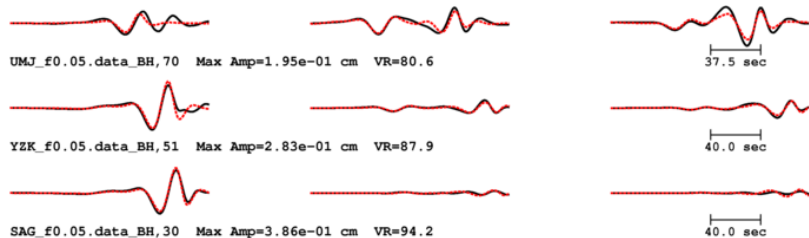
Var. Red = 89.68
Percent DC = 96
Percent CLVD = 4
Variance = 3.70×10^{-4}
RES/Pdc. = 3.86×10^{-6}

— Obs.
..... Syn.

Tangential

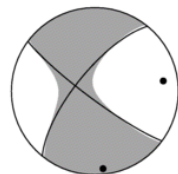
Radial

Vertical



07/28 17:08 (Mw 5.7, 深さ8km)

南北伸張の横ずれ断層



Mw = 5.7
Mo [Nm] = 3.88×10^{17}
NP1: (219, 72, -172)
NP2: (127, 83, -19)

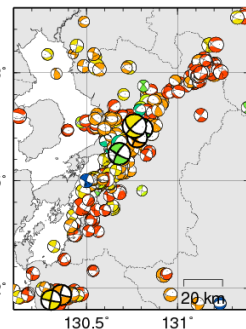
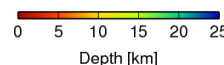
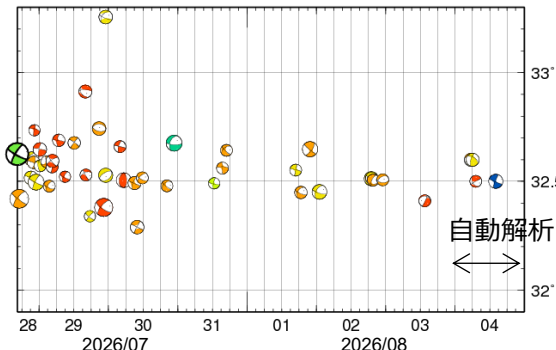
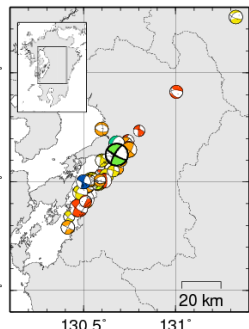
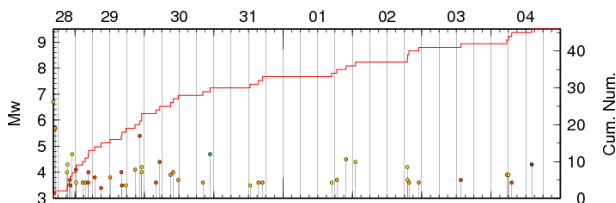
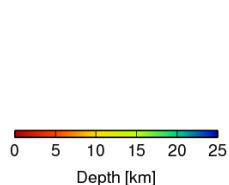
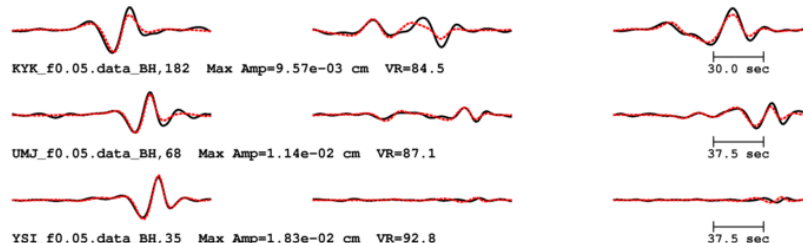
Var. Red = 89.22
Percent DC = 81
Percent CLVD = 19
Variance = 8.31×10^{-7}
RES/Pdc. = 1.03×10^{-8}

— Obs.
..... Syn.

Tangential

Radial

Vertical



1998 2001 2004 2007 2010 2013 2016 2019 2022 2025

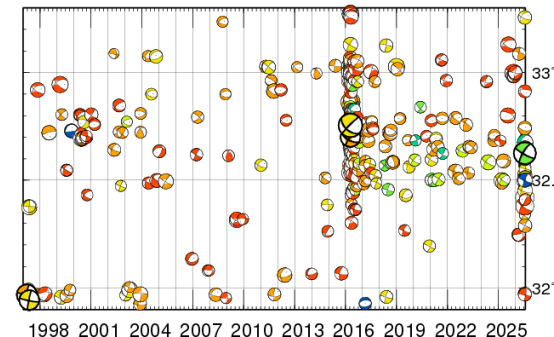
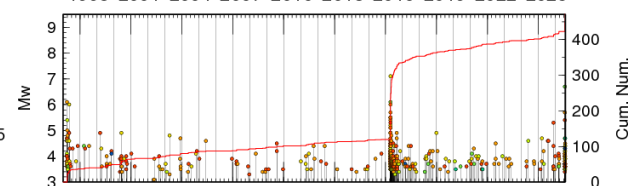


図1 F-netモーメントテンソル解カタログによる2026年7月28日16:27～8月4日の周辺の地震活動（深さ25km以浅）. Mw 6.0以上の地震を太線で示す。

図2 1997年1月1日～2026年8月4日の周辺の地震活動（深さ25km以浅）. Mw 6.0以上の地震を太線で示す。

(4) 長周期地震動

「令和 8 年熊本地震」の一連の地震活動で、長周期地震動階級 1 以上を観測した地震は 3 回であった（表 4－1、2026 年 8 月 1 日現在）。

表 4－1 長周期地震動階級 1 以上を観測した地震

発生日時	震央地名	マグニチュード	最大震度	最大長周期地震動階級
2026 年 07 月 28 日 16 時 27 分	熊本県熊本地方	7.1	7	4
2026 年 07 月 28 日 17 時 08 分	熊本県天草・芦北地方	6.1	5 弱	2
2026 年 07 月 29 日 22 時 19 分	熊本県天草・芦北地方	5.8	5 弱	1

以下では、7 月 28 日 16 時 27 分の熊本県熊本地方の地震（M7.1）について、観測された長周期地震動階級と地震波形等をまとめたものである。

ア. 観測した長周期地震動階級

この地震により、熊本県熊本で長周期地震動階級 4 を観測したほか、近畿地方から九州地方にかけて長周期地震動階級 4～1 を観測した（図 4－1、表 4－3）。

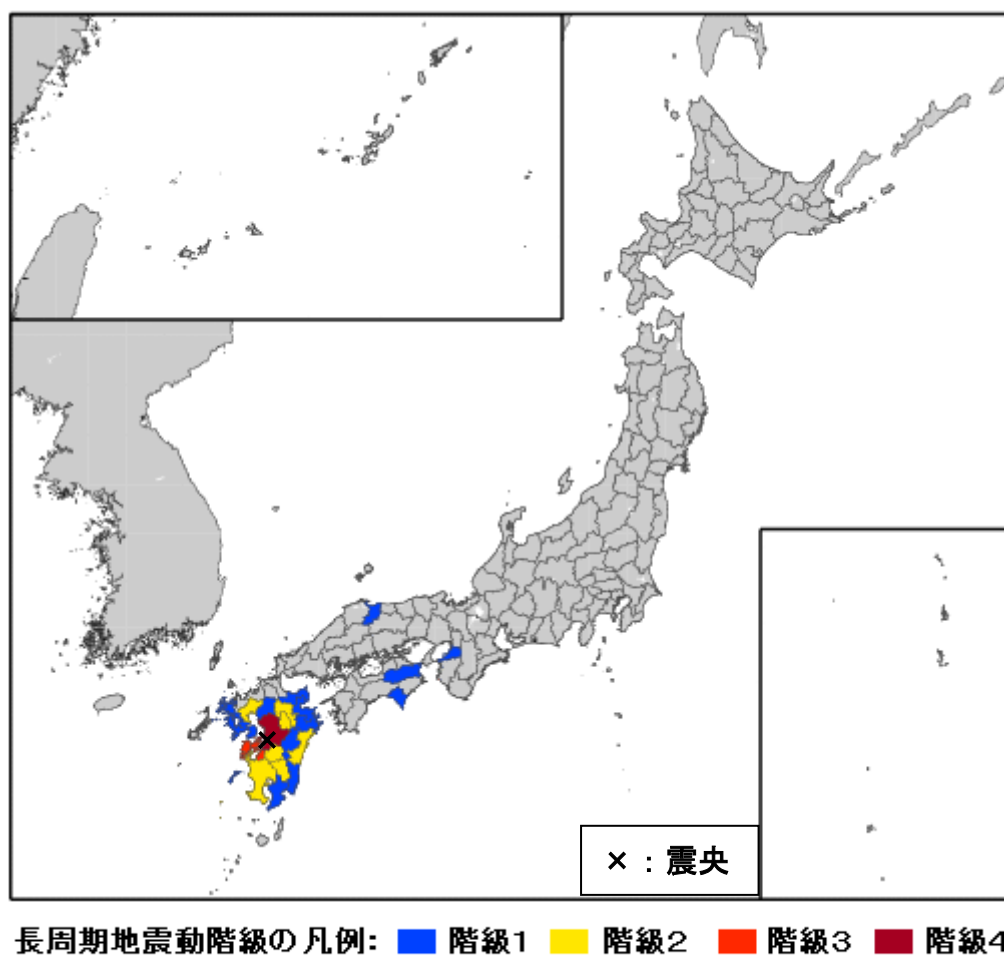


図 4－1 長周期地震動階級 1 以上を観測した地域の分布図